



# 防災に貢献したい

昨年12月、高知市で「高知県高校生津波サミット」が開かれました。県内53校、約210人の高校生が参加。16校が白ごころの防災活動を発表し、意見交換しながら南海トラフ地震への備えを考えました。今月の「読もっかいのぐ」は、防災いのぐ記者による津波サミットリポー

ト。記者11人が4班に分かれて、高校生の発表を取材しました。各班の担当は4校。特に良かったと思う1校の取り組みは記事で、残り3校は見出しのようにまとめました。防災に貢献しようと奮闘する先輩を見て、感じた思いも紹介します。

## 高校生の発表 いのぐ記者が取材

C班 須崎工業高校（須崎市）

### 支援できる人になろう！



HUGに取り組み須崎工業高の生徒ら

須崎工業高校は昨年9月に避難所運営ゲーム（HUG）を全校生徒でしました。ゲームを通して、支援者として活動することの大切さを学びました。

海拔43mで海から570mの場所にある須崎工業高校には津波は来ませんが、学校の下住宅地には津波が来る恐れがあります。そのため、学校は避難所に指定されており、防災意識を高めるためにHUGを行いました。

班ごとに分かれて、避難所で想定される課題について考えました。例えば、犬を連れてきた夫婦がいた場合、その内容にあった解決策を高校生自身が探します。避難する側ではなく、避難者を受け入れる立場を体験することで、支援者としての意識を高めました。

この他にも、工業高校の強みを生かして、木の板に「避難しました」の文字をレーザー加工した安否札を作りました。安否札は災害時、避難したことを救助しに来た人に伝えるため玄関先に掲げる札のことで。昨年度に続いて、作った安否札を地域の人に配布する活動も行いました。

（北岡楽夢、黒川亜美、坂本一真記者）

- 室戸高校（室戸市） 防災委員を新設して防災活動を幅広く展開
- 大方高校（黒潮町） 被災地訪問の体験談 全校に発表で意識向上
- 土佐塾高校（高知市） 防災用具の使い方を英語で説明する動画作成



## 高知県高校生

## 津波サミット

# 本校代表生徒が取組発表！

取組内容がこども高知新聞に掲載される